

世界人口の推計 (1650—1933)

		(單位百萬)					
		1650	1750	1800	1850	1900	1933
歐洲	100	140	187	266	401	519	
北米	1	1.3	5.7	26	81	137	
中南	12	11.1	18.9	33	63	125	
大洋	2	2	2	2	6	10	
アフリカ	100	95	90	95	120	145	
亞細亞	330	479	602	749	937	1,121	
計	545	728	906	1,171	1,608	2,057	
		百分率					
歐洲	18.3	19.2	20.7	22.7	24.9	25.2	
北米	0.2	0.1	0.7	2.3	5.1	6.7	
中南	2.2	1.5	2.1	2.8	3.9	6.1	
大洋	0.4	0.3	0.2	0.2	0.4	0.5	
アフリカ	18.3	13.1	9.9	8.1	7.4	7.0	
亞細亞	60.6	65.8	66.4	63.9	58.3	54.5	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

かくの如く著大な増殖率は近代以前には全く想像し難いところであるが故に、我々の時代は實に一の異常な、そして恐らくは未曾有な人口増加の時代であるといへないことになる。今日の人口問題を論ずる爲には、過去三世紀がかくも比類のない人口膨脹によつて特性づけられてゐることを常に銘記せねばならぬ。之は勿論一般の認めて異議のないところであり、そして更に一般には此の人口膨脹は歐羅巴に初まり他の諸大陸がその後を追つたと考へられて、且つ人口膨脹の刺戟は言はずに歐羅巴から他の諸大陸へ輸入せられたと考へられてゐる。が、かくる結論は必ずしも全的に承服し難い。十八世紀歐洲諸國人口趨勢の推定結果は歐洲人口が全く停滞的であつた時代に遡り得ることを示してゐる。十七世紀末三十年戰役の後には歐洲の二三の地方に若干の人口増加があつたには相違ないが、併し之は戰爭と悪疫によつて生じた間隙の補填と稱すべきもので、従前にも例のないことではない。大體に於いて歐洲人口の決定的な増加は一七〇〇年以前よりも寧ろそれ以後に初まると見る方が正鵠を得てゐる。他方、日本の人口は一六五〇年より一七二一年に到る間に著しい増加傾向を示してをり、また支那の人口は十八世紀中、そして恐らくは十七世紀後半にも急速に増加した。かく亞細亞の二主要國の人口増加は歐洲人口の増加と少くともその時期を同じくしてをり、且つ恐らくは歐洲よりも更に以前に初まつてゐる。孰れにもせよ此の時代に之ら兩國に對する歐洲の影響を考へることは不可能である。とはいへ、之ら二つの例外的事例を除いて考へるならば、歐洲以外の人口増加は歐洲に於けるよりも後に初まり、且つ種々の事實は印度、ジャワ、エチオプト等の人口増加が歐洲の影響に負ふものであるといふ結論を首肯せしめざるを得ぬ。孰れにもせよそれらは歐洲との接觸後に間もなく生じたところの事實であることは疑ひない。

(Carr-Saunders, The World Population 44)

- (34) 及び渡邊信一「日本農村人口論」四六四頁參照。
四宮恭二「戰爭・食糧・農業」一四九頁。
- (32) 朝鮮總督府農林局「朝鮮の農業」七一頁。
- (33) 農村過剩人口の意義については、伊藤律「日本に於ける農家經濟の最近の動向(二)」(滿鐵調査月報「第二十一卷第九號」)六六頁、

- (35) たとへば最近の「大陸東洋經濟」第二號所載の「朝鮮勞務の決戦寄與力」たる座談會の席上で、記者の「半島で婦人があまり仕事をしないのはどうしたわけですか」との間に朝鮮總督府農產課技師石井辰美氏は「むかしからの習慣でせうね」と簡単に答へてゐられる。
- (36) 印貞植「朝鮮農村再編成の研究」一五九頁。

(埋め也)